

「事業系一般廃棄物の減量化、資源化及び適正な処理」
について

厚木市 環境農政部

環境事業課 資源循環係

令和5年6月

1 「事業系一般廃棄物の処理に関する実績並びに減量化及び資源化に関する計画書」とは

廃棄物処理法や厚木市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例に基づき、事業活動に伴い多量に一般廃棄物を生じる事業者（多量排出事業者）は、廃棄物の減量化・資源化を推進するため、「事業系一般廃棄物の処理に関する実績並びに減量化及び資源化に関する計画書」（以下、「廃棄物減量等計画書」という。）を市長に提出することが義務付けられています。

廃棄物減量等計画書には、事業活動から排出される一般廃棄物の種類、排出量、処理方法等について、前年度実績と今後の計画を具体的に記載していただきます。

また、あわせて「廃棄物管理者選任（変更）届」の提出をしていただきます。

なお、該当する事業者については、毎年市から通知等により連絡します。

2 多量排出事業者とは

1年間に、36トン以上の事業系一般廃棄物を厚木市環境センターに搬入する事業者をいいます。

※ 委託により処理する場合も含みます。

3 多量排出事業者の義務

- (1) 廃棄物管理責任者を選任すること。
- (2) 毎年1回、廃棄物減量等計画書を作成し、市に提出すること。
- (3) 廃棄物管理責任者や廃棄物減量等計画書に変更があった場合、市に届け出ること。
- (4) 廃棄物減量等計画書について、市から指導、助言があった場合は改善措置を行い、市に改善措置報告書を提出すること。

4 廃棄物管理責任者の選任について

(1) 選任の条件

多量排出事業者が排出する事業系一般廃棄物の管理について権限を有する方を選任してください。

(2) 廃棄物管理責任者の責務

廃棄物管理責任者の責務は、次のとおりです。

ア 条例第13条に規定する「廃棄物減量等計画書」を作成し、市に提出すること。

イ 自らの事業所等が排出する事業系一般廃棄物の種類、排出量及び処理の方法等を把握し、事業所等内の適正排出に係る指導を行うこと。

ウ 自らの事業所等が排出する事業系一般廃棄物のうち、減量化、資源化が可能な廃棄物の種類、数量及びその減量化、資源化の方法を把握し、更なる推進を図ること。

エ 自らの事業所内の事業系一般廃棄物の減量化、資源化及び適正処理に係る市との連絡事務を行うこと。

オ その他、自らの事業所等内での事業系一般廃棄物の減量化、資源化及び適正処理に係る推進に関すること。

(3) 報告の方法

4月1日から6月30日までの間に、廃棄物管理責任者を選任し、別添「廃棄物管理責任者選任（変更）届」を提出してください。

以後、変更がない場合は提出不要。変更がある場合は、その都度、変更届を提出してください。

5 廃棄物減量等計画書について

(1) 計画期間について

4月1日から翌年の3月31日まで

(2) 提出書類、期限

ア 様式「1 事業系一般廃棄物減量化・資源化等処理計画書」、「2 一般廃棄物処理実績表」、「3 一般廃棄物処理計画表」、「4 前年度との比較」を、毎年4月1日以降6月30日までに提出してください。

イ 提出後、計画期間内に計画変更が生じた場合は、速やかに変更箇所を朱書き訂正のうえ提出してください。

6 提出先について

「廃棄物管理責任者選任（変更）届」及び「事業系一般廃棄物減量化・資源化処理計画書」の提出先については、次のとおりとします。

〒243-0807 厚木市金田 1641 番地 1

厚木市 環境農政部 環境事業課 資源循環係（厚木市環境センター内）

電話：(046) 225-2793（直通）

7 市からの助言等について

市は、提出された廃棄物減量等計画書を確認し、減量化、資源化及び適正処理について更に推進するため、計画について必要な助言等を行います。

市から、助言を受け、事業者等が改善措置を行った場合には、廃棄物減量等計画書を再提出もしくは変更届を提出していただく場合があります。

市長の助言により改善が見られないときは、その理由について、報告書の徴収を行う場合があります。

また、前述の改善が見られない理由を示した報告書が提出されない場合は、期限を定めて必要な改善を指導・勧告します。

勧告を受けた場合は、「廃棄物減量等計画書改善措置報告書」を期限までに提出していただきます。提出がない場合、事業系一般廃棄物の厚木市環境センターへの受け入れ拒否等の不利益処分を受けることがありますのでご注意ください。

参考：厚木市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例

(多量排出事業者)

第13条 事業系一般廃棄物を多量に排出する事業者で規則で定めるもの(以下「多量排出事業者」という。)は、事業系一般廃棄物の処理に関する実績並びに減量化及び資源化に関する計画書(以下「廃棄物減量等計画書」という。)を毎年1回、規則で定めるところにより、市長に提出するとともに、廃棄物減量等計画書に基づき、事業系一般廃棄物の減量化、資源化及び適正な処理を行わなければならない。

2 多量排出事業者は、廃棄物減量等計画書の記載事項に変更があったときは、遅滞なくその旨を市長に届け出なければならない。

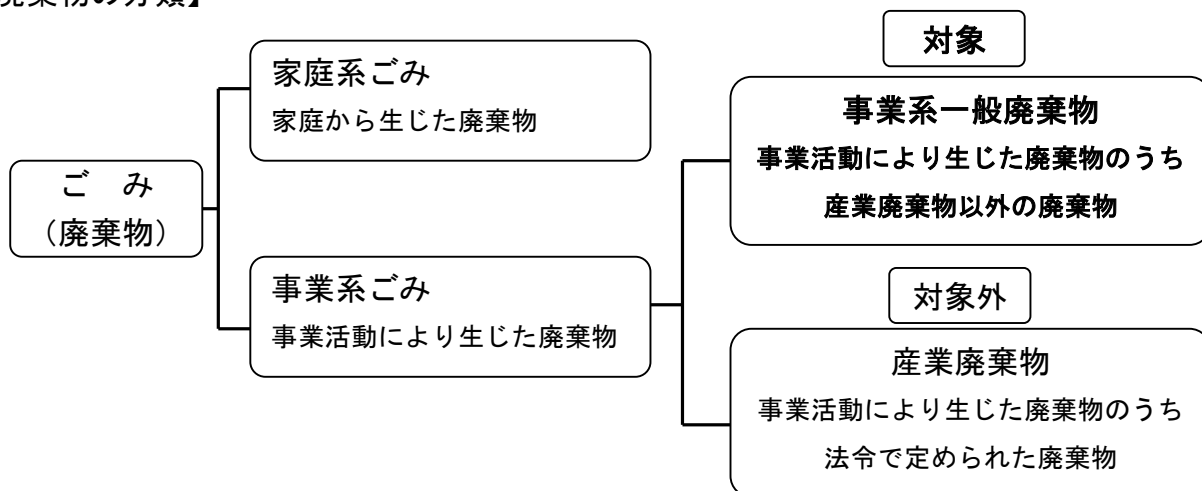
(事業系一般廃棄物管理責任者の選任)

第14条 多量排出事業者は、事業系一般廃棄物の減量化、資源化及び適正な処理に関する業務を行わせるため、事業系一般廃棄物管理責任者を選任し、規則で定めるところにより、その旨を市長に届け出なければならない。事業系一般廃棄物管理責任者を変更したときも、同様とする。

「廃棄物減量等計画書」の対象となる廃棄物

「廃棄物減量等計画書」は、事業系一般廃棄物が対象です。
産業廃棄物は対象となりませんので、ご注意ください。

【廃棄物の分類】



このうち、産業廃棄物とは、事業所から排出される廃棄物のうち、廃棄物処理法で定められた20種類の廃棄物になります。

《産業廃棄物》

燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、※紙くず、※木くず、
※繊維くず、※動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず
及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、※動物のふん尿、※動物の死体、ばいじん、
※動植物性固形不要物、※上記19種類の廃棄物を処分するために処理したもの
(※=特定の事業活動に伴うもの)

《事業系一般廃棄物の例》

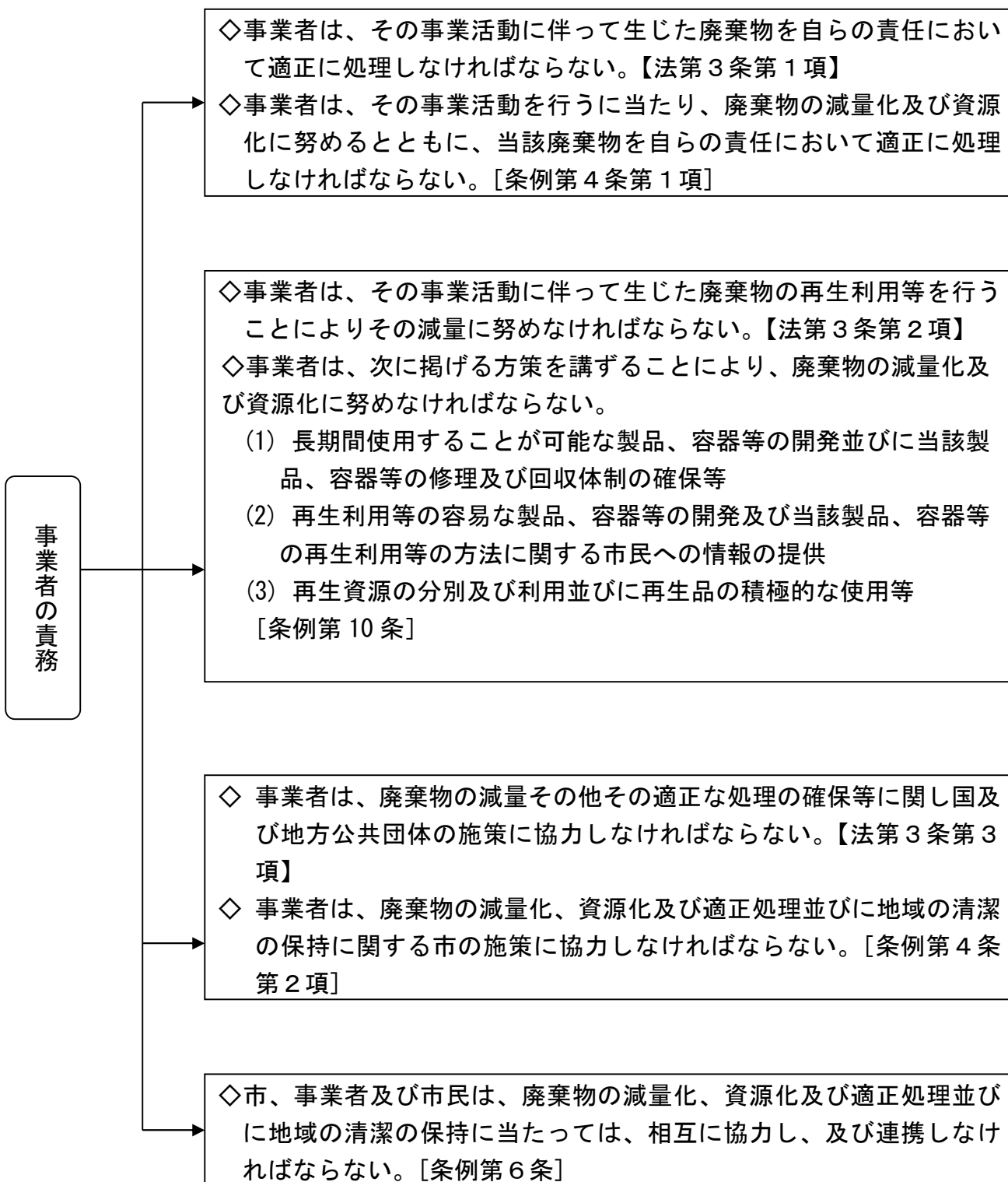
- ☆ 事務所、店舗から出る紙くず、梱包に使用した段ボールなど
- ☆ 飲食店、従業員食堂から出る残飯など
- ☆ 卸小売業から出る野菜くず、魚介類など

(参考) 《産業廃棄物の例》

- ★ 事務所、店舗から出た家電製品（金属くず）、蛍光灯（ガラスくず）など
- ★ 荷物の集配に使用したプラスチック製の梱包材等（廃プラスチック類）など
- ★ 建物の建築・改築・除去に伴って発生した紙くず、木くず等

事業者の責務

私たちの生活環境に悪影響が及ばないように、事業者等は廃棄物処理法第3条及び市条例により守らなければならないことが規定されています。



減量とリサイクル

紙類の排出抑制とリサイクル

○ 発生抑制・リサイクルを進めましょう！

《取組例》

- ・印刷やコピーは最小限にし、両面コピーを心がけ、使用済み用紙の裏面も利用する。
- ・同じ内容の資料や書類の写しは1冊にまとめ、複数人で利用する。
- ・封筒、ファイル等の事務用品を再使用する。
- ・新聞・雑誌・段ボール・OA用紙等、種類ごとに分別し資源回収業者等に引き渡す。
- ・再生紙の使用を促進する。
- ・使い捨ての紙製品の使用を削減する。
- ・包装の簡素化に取り組む。

紙類は資源の宝庫です。正しく分別してリサイクルをしましょう。

リサイクルを推進することで、ごみ処理経費の削減等にもつながります。

《厚木市環境センター搬入禁止物です》

○ 紙類の処理について

紙問屋等の古紙回収業者に処理を依頼してください。



○ 紙類の処理について

紙問屋等の古紙回収業者に処理を依頼してください。

【市内の古紙回収業者】

(株) 富澤 厚木紙資源センター〔厚木市下依知1丁目8番1号 電話(046)245-2985〕

(株) 金澤紙業 厚木工場〔厚木市船子41番地2 電話(046)248-1251〕

松岡紙業(株) 厚木営業所〔厚木市金田1009番地4 電話(046)297-4545〕

むさし野紙業(株) 厚木営業所〔厚木市岡田3丁目4番14号 電話(046)226-6080〕

(株) 坪野谷紙業〔厚木市長沼245番地2 電話(046)228-6001〕

【受入可能品】

※ 次の種類毎に分別してください。

○段ボール ○新聞・チラシ ○本・雑誌 ○コピー用紙 ○シュレッダーした紙

○その他紙類 など

※ 分別されていない場合、受入できないことがあります。

※ 機密書類の処理(溶解証明書発行可)もできます。

※ 受入条件・費用等の詳細は、各業者にご相談ください。

缶・びん・ペットボトル類のリサイクル

○混ぜればごみ、分ければ資源

従業員の皆さんが出した缶・びん・ペットボトルについても、きちんと分別してリサイクルしましょう。

リサイクルについては、各許可業者で取扱っております。

《厚木市環境センター搬入禁止物です》

《事業者の皆様へお願い》

厚木市環境センターにおきまして、これらの資源物がもえるごみに混入している事例が目立っております。

これらの資源物が、もえるごみの中に混入してしまうと、資源としての有効利用の道がなくなるだけではなく、厚木市環境センターの焼却炉の故障などの深刻なトラブルの要因にもなりますので、分別の徹底をお願いします。



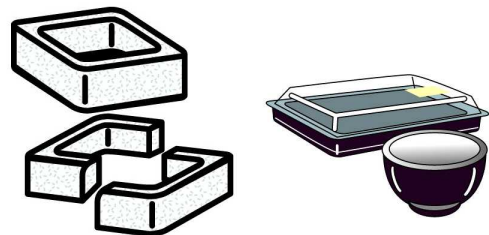
プラスチック製品のリサイクル

○ プラスチック製品についても、リサイクルが可能です

プラスチック製品は、RPF（紙・プラスチック等の廃棄物を原料とした再生固形燃料）などにリサイクルされています。汚れや異物がないようにしてリサイクルしましょう。

〔プラスチック製品の代表例〕

食品等の容器包装類、PP バンドなどの梱包材
発泡スチロール類、外装フィルムなど



《厚木市環境センター搬入禁止物です》

※ プラスチック製品は、産業廃棄物に該当します。

※ 引取り条件等については、各業者に直接お問い合わせください。

3 Rの推進

3 Rとは、循環型社会づくりのための行動を表したキーワードです。

Reduce（リデュース：減らす）・Reuse（リユース：再使用）・Recycle（リサイクル：再生利用）の3つのRを実践し、循環型社会の形成にご協力ください。

Reduce（リデュース：減らす）

◇事務関連(例)

- ・紙製品の有効利用や電子機器の有効活用による紙ごみの削減
- ・補充式事務用品の使用促進
- ・紙製品や事務用品の一元管理による購入抑制
- ・使い捨て商品の使用抑制
- ・ごみ箱の設置個所を減らすことによる排出抑制

◇製造関係(例)

- ・リサイクル可能な製品の開発
- ・耐久寿命の長い商品の開発
- ・頻繁なモデルチェンジの抑制
- ・使い捨て商品の製造抑制
- ・過剰包装の抑制

◇販売・サービス関係(例)

- ・簡易包装の促進
- ・はかり売りの推進
- ・詰め替え商品の販売促進
- ・マイバッグ運動の推進
- ・使い捨て商品の販売抑制

Reuse（リユース：再使用）

◇事務関連(例)

- ・ ミスコピー紙や不要となった紙の裏面の再使用やメモ紙としての再使用
- ・ 封筒、ファイル、ホルダー等の繰り返し使用
- ・ 使用していない事務用品の他部署での有効利用
- ・ 事務用品の故障時等の修理の徹底

◇製造関係(例)

- ・ 修理体制の充実

◇販売・サービス関係(例)

- ・ 運搬資材、梱包資材の再使用推進
- ・ 再使用可能商品の販売促進

Recycle（リサイクル：再生利用）

◇事務関連(例)

- ・ エコマークやグリーンマーク商品、再生紙の利用促進
- ・ 資源の分別と資源ごみとしての排出促進
- ・ 分別しやすいごみ箱の設置

◇製造関係(例)

- ・ 再生利用等の容易な製品、容器等の開発
- ・ 製品の再生利用等の方法に関する市民への周知
- ・ 消費された製品や容器の回収体制の充実
- ・ 再生資源の積極的な利用

◇販売・サービス関係(例)

- ・ 容器包装の店頭回収の推進
- ・ 製品の再生利用等の方法に関する市民への周知
- ・ 再生品の積極的な販売推進

内容物検査実施

厚木市では、不適正排出を防ぐため、環境センターへ搬入される事業系一般廃棄物の展開検査を実施しています。展開検査で不適正搬入物を発見した場合は、搬入業者に対し指導及び持ち帰り指示しています。また、排出された事業者に対して聞き取り、指導を実施し事業系一般廃棄物の適正処理を呼びかけています。

内容物検査実施の様子



内容物検査にて発見された不適正排出物

事業活動に伴って排出されたプラスチック類や缶、ビン、ペットボトル、金属類は産業廃棄物になります。展開検査を実施した結果、事業系一般廃棄物に混在して、これらの産業廃棄物が搬入されるケースが多く確認されています。



ペットボトル(廃プラ)



発砲スチロール(廃プラ)



ビニール袋(廃プラ)



PPバンド(廃プラ)



医療系廃棄物(廃プラ)



空き缶(金属類)



小型家電(金属類)



鉄くず(金属類)



紙くず(業種限定)



建設くず(業種限定)

**これらは、すべて
産業廃棄物です。
環境センターで
処理することができません。**

※搬入された事業系ごみの中に不適正排出物が多量に含まれている場合は、搬入を拒否し、再三の指導にも関わらず改善されない場合は、「厚木市一般廃棄物処理業の許可等に関する事務取扱要綱」に基づき、搬入停止等の不利益処分となります。

内容物検査にて発見された資源となる一般廃棄物



これらは、資源となる一般廃棄物です。紙問屋等の古紙回収業者・木くずの取り扱い業者へ持ち込むか、資源回収許可業者に引き取ってもらうなどをして、事業系ごみの減量化・資源化にご協力ください。

令和4年度実施された展開検査実施結果

展開検査実施車両	540台
不適正排出物のため口頭注意	92回
不適正排出物のため受入拒否	21回
文書による事業者指導	11回

- 『主な指導内容』
- 一般廃棄物となる可燃ごみの中に資源物、産業廃棄物が混入されていた。
 - シュレッダーの中に可燃ごみなどが混入されていた。
 - 臭いの付いたビニールが大量に搬入された。廃プラは産業廃棄物となる。
 - 事業活動中に排出されたお弁当容器なども廃プラとなるため、分別して産業廃棄物として処理をする。
 - 大量の不適正排出物が搬入されたため、受入れ拒否の指導をした。

※検査をした結果、廃プラスチックを大量に搬入する車両が多くあり、その中に、資源として活用できる紙類や生ごみなどの可燃ごみが混入しているケースが多くありました。可燃ごみや資源となる一般廃棄物は排出先で必ず分別をし、環境センターへ持込むようお願いいたします。

《 問合せ先 》

厚木市環境農政部 環境事業課 資源循環係

電話 (046) 225 - 2793 F A X (046) 224 - 0920

メール 3300@city.atsugi.kanagawa.jp